

# 特別支援教室「すばる」における学習指導事業の実施状況と課題

## —個別学習指導を利用した子どもと保護者へのアンケート調査—

武 藏 博 文<sup>1</sup> ・ 山 本 木ノ実<sup>1</sup> ・ 中 島 栄美子<sup>2</sup>  
徳 永 千恵子<sup>3</sup> ・ 横 山 依 子<sup>4</sup>

### <要 約>

香川大学大学院教育学研究科特別支援教室「すばる」では、その事業の一つとして、学習指導事業に取り組んでいる。平成28年度に、この事業を利用した子どもと保護者に対してアンケート調査を行った。指導担当者の対応と説明、個別学習指導の成果、指導回数と連携体制、子ども本人の評価等について検討した。

キーワード：発達障害、個別学習指導、相談支援、通級指導、子ども理解

### I. はじめに

香川大学大学院教育学研究科特別支援教室「すばる」（以下、特別支援教室「すばる」）は、平成15年度に、地域における特別支援教育の充実を図り、その成果を全国に向けて発信するために、「通級指導のモデル事業」として開設した。その趣旨は、公立小・中学校における「通級指導教室」のあり方の提案、子どもの能力や特性に応じた個別指導の内容と方法に関する実践と研究、保護者ならびに学級担任に対する支援、一般の方々への理解啓発である。事業として、診断（判断）・相談事業、学習指導事業、研修教育事業、研究開発事業等に取り組んできた（恵羅・小方・坂井・繪内・馬場・佐藤・田中・澁田，2007；香川大学教育学部，2011；恵羅・田中・武藏・馬場・秋山，2013；香川大学

教育学部，2017；武藏・山本・中島・徳永・富永，2017）。

特別支援教室「すばる」では、年間で130件程度の教育相談（平成27年度126件、平成28年度158件、平成29年度108件）と、40人程度の個別学習指導（平成27年度44人、平成28年度49人、平成29年度39人）を行っている。個別学習指導は、指導申込後に受理面接として、具体的な主訴（相談内容）や状態、生育歴等の聴取、子どもの行動観察を行う。その後に、指導のためのアセスメントとして、学習や生活状況の把握、心理検査等を行い、総合的な支援計画、個別の指導計画を作成し、指導の実施に至る。毎回の指導の様子は、指導後の面談で直接に保護者に説明する。週1回1時間程度の指導を、1指導期間に10回程度行う。年間を3期に分けて実施

1 香川大学大学院教育学研究科

2 香川大学教育学部

3 香川大学教育学部附属特別支援学校

4 香川大学大学院教育学研究科特別支援教室「すばる」

している（第1期：5月～7月、第2期：9月～11月、第3期：1月～3月）。

特別な教育的ニーズのある子どもに対して、学校教育の中で個に応じた多様なサービスが行われるようになった。学習活動だけでなく、学校生活全体に関する指導支援や、学校と保護者の連携等に課題がある。平子・菊池（2012）は、通級指導教室を利用する保護者に対して調査を行った。保護者は、通級指導の指導回数や指導時間の増加を望んでいた。「指導内容や指導効果を分かりやすく説明してほしい。」「保護者の意見も聞いてほしい。」等の意見が多くあがった。保護者との連携が十分でなく、悩みを十分に相談できずに不安な思いを抱えていることを明らかにした。石塚（2016）は、特別な教育的ニーズのある児童の保護者に学校教育に関する調査を行った。学校での学習活動に関して、個別指導や補助教員等の要望が高く、家庭でどのようにフォローすればよいか悩んでいる様子が示された。友だち関係や休憩時間の過ごし方等の学習以外の場面で困難があることに気づいているが、具体的な支援方法が思いつかない保護者も多かった。

教育相談をすすめながら、保護者が子どもへの理解を深めて、日常の生活での子育てを行うことも課題である。仲森・大谷（2016）は、発達障害児の母親の心理的安定には、子どもの状態に合わせた働きかけと具体的なアドバイスが大切であることを示した。また、大里（2017）は、日常的に相談ができる体制と相談しやすい雰囲気があり、相談担当者が発達障害への理解と知識を備えていることが必要であるとした。「子どもの特性を理解してくれた。」「思いや考えが伝わり一致した。」という共感的な理解が持て、具体的な対応の仕方が分かることである。小越・廣澤・武澤・松井・近藤・三橋（2012）は、発達障害児の療育教室に通う保護者が、療育スタッフとの関わりを通じて、自分とは異なった他者の見方を知ること、わが子に対する自己理解を深めていることを示した。

特別支援教室「すばる」の事業の一つである学習指導事業において、特別支援教育としての

学習支援機能、教育相談機能の充実を図ることは重要な課題である。個別学習指導を利用した子どもとその保護者が、相談や指導の結果をどのように評価しているかを検討することが大切となる。平成28年度の個別学習指導の利用者にアンケート調査を実施し、指導担当者の対応と説明、個別学習指導の成果、指導回数と指導体制、子ども本人の評価等について検討した。

## Ⅱ. 方法

調査対象は、平成28年度に特別支援教室「すばる」において個別学習指導を受けた子どもとその保護者の49組であった。

個別学習指導での指導内容は、学習面では、文字の読み書き、漢字書字、文の構成や文章作成、数の合成分解、加減算、繰り上がり下がりのある筆算、算数文章題、視知覚のワーク等であった。情緒行動面では、学習態度、準備片付け、自己理解、感情統制等であった。対人関係面では、社会的技能、集団参加や授業場面での対処、友達とのトラブル対処、他者理解、自己主張等であった。

アンケート調査の項目は、保護者には、Table 1に示すように、学校とそれ以外での支援、特別支援教室「すばる」に相談するまでの経緯、指導担当者の対応、個別学習指導の成果、指導回数、連携体制、指導に関する満足度を聞くものであった。子ども本人には、Table 2に示すように、特別支援教室「すばる」での指導について聞くものであった。

アンケートの記入は、選択式で回答するもので、項目により「当てはまるもの全てに○をつけてください」のように複数回答を求めるものがあった。選択した回答の理由を問う項目もあった。子ども本人向けの調査用紙は、ひらがなでルビが振ってあった。必要に応じて、保護者が問いの文を読んで聞かせるようお願いした。

アンケートの実施は、各指導期の終了後の事後面接（平成28年8月、12月、平成29年3月）のときに、保護者それぞれにアンケートの記入を依頼し、郵送による返送を求めた。

Table 1 保護者へのアンケート項目

No.	項目内容
1	学校でどのような支援を受けていますか。
2	特別支援教室「すばる」以外に通っているところがありますか。
3	特別支援教室「すばる」のことをどのように知りましたか。
4	特別支援教室「すばる」に初めて来談する前の気持ちを教えてください。
5	個別指導で、指導担当者に相談をしたときの対応を教えてください。
6	個別指導で、指導担当者からの説明について教えてください。
7	特別支援教室「すばる」を利用した結果、お子さんの様子はどのようになりましたか。
8	具体的に何が変わりましたか。 (1)勉強 (2)意欲 (3)忘れ物 (4)学校でのトラブル (5)学校での様子 (6)友だちとの関係 (7)先生との関係 (8)親として子ども理解 (9)その他
9	特別支援教室「すばる」の指導に、お子さんは自分から参加しようとしていましたか。
10	特別支援教室「すばる」での指導回数は、期待通りでしたか。
11	特別支援教室「すばる」と担任や学校園との連絡体制についてお聞きます。
12	特別支援教室「すばる」についての全体的な満足度を教えてください。
13	特別支援教室「すばる」についての要望あるいは今後の期待をお書きください。

Table 2 子ども本人へのアンケート項目

No.	項目内容
1	すばる教室に来ることについて聞きます。
2	すばる教室でしていることについて聞きます。
3	先生の教え方について聞きます。

Table 3 回答者の概要

学年	男	女	計
年長	2	1	3
小1・2	10	2	12
小3・4	10	0	10
小5・6	2	3	5
中	8	1	9
計	32	7	39

### Ⅲ. 結果

#### 1. 回答者の概要

39組から回答があり、回収率は79.6%であった。回答者の子どもの年齢性別をTable 3に示す。特別支援教室「すばる」の個別学習指導は、例年、小学校低中学年が多く、男児が多い傾向にある。

#### 2. 学校と学校以外とで受けている支援

学校で受けている支援内容を複数回答によりTable 4にまとめた。「特に支援を受けていない」という回答が16人(全体の約4割)であった。「連絡を密に取り合っている」という回答が12人(全体の約3割)で、その多くに、「宿題や学習内容を軽減している」「通級による指導を受けている」等の複数回答があった。「支援員が

ついている」の回答の記述には、「週1から2回程度。」「国数のみ。」があった。「その他」の回答の記述には、「困ったときに連絡する。」「トラブルがあればその都度対応する。」「給食時間に先生の隣で一緒に食べる。」「テストにふりがなをふってくれる。」があった。

特別支援教室「すばる」以外で受けている支援内容を複数回答によりTable 5にまとめた。「病院での投薬」という回答が最も多く、17人(全体の約4割)であった。薬名として、コンサータ、ストラテラが多く、次いで、リスパダール、エビリファイであった。「塾」という回答は16人(全体の約4割)で、学習塾、個別指導、ナビ個別指導、公文、英語、硬筆、運動

Table 4 学校で受けている支援の内容

a 連絡を密に取り合っている	12
b 宿題や学習内容を軽減している	5
c 時間外や放課後に指導を受けている	2
d 通級による指導を受けている	5
e 支援員がついている	4
f 特に支援を受けていない	16
g その他	5

回答総数39, 複数回答有

Table 5 学校以外で受けている支援の内容

a 塾	16
b 放課後等児童デイサービス	1
c 特別な指導を行う教室	2
d 病院での訓練	5
e 病院での投薬	17
f その他	3

回答総数39, 複数回答有

(バスケット、空手、スイミング)、知育、ピアノ、そろばん等の様々なものがあがった。「病院での訓練」の回答は、ST、作業療法、SSTであった。「その他」の回答は、家庭教師、SSTであった。

### 3. 特別支援教室「すばる」に相談するまでの経緯

特別支援教室「すばる」をどのように知ったかを複数回答により Table 6 にまとめた。「学校園のスクールカウンセラーから」という回答が13人(全体の約3割)、「知人から」という回答が12人(全体の約3割)であり、「病院で紹介されて」「学校園の担任から」が続いた。様々な機関や人から紹介されて来ていることが分かる。「その他」の回答の記述には、「講演会ですばるの先生の話聞いて。」「きょうだいが通っていたから。」「ペアレントメンターで話を聞いて。」があった。

特別支援教室「すばる」に来談する前の気持ちを複数回答により Table 7 にまとめた。「悩み事がよくなるなと思ってきた」という回答が

Table 6 特別支援教室「すばる」をどのように知ったか

a 新聞やニュースで	0
b インターネット、ホームページで	2
c 知人から	12
d 学校園の担任から	6
e 学校園のスクールカウンセラーから	13
f 病院で紹介されて	8
g その他	4

回答総数39, 複数回答有

Table 7 特別支援教室「すばる」に来談する前の気持ち

a 悩み事がよくなるなと思ってきた	24
b 自分から相談しようと思ってきた	21
c 勧められてきた	15
d 興味があつてきた	10
e 他に相談するところがなかった	4
f 半信半疑できた	0
g その他	5

回答総数39, 複数回答有

24人(全体の約6割)、「自分から相談しようと思ってきた」という回答が21人(全体の約5割)、「勧められてきた」という回答が15人(全体の約4割)であった。「その他」の回答の記述には、「苦手分野が向上してくれたらと思った。」「発達障害を理解している先生に指導を行ってもらいたくて。」「子どもが生きやすくなるように。」「子どもの現状、気持ち、状態が知りたかった。」があった。

### 4. 指導担当者の対応と説明

個別学習指導において指導担当者に相談をしたときの対応について Table 8 にまとめた。相談したこと、悩み事の理解、具体的なアドバイスのいずれについても、全員が「よかった」と評価した。

個別学習指導での指導担当者からの説明について Table 9 にまとめた。「指導の目的・内容の説明」(39人)、「目的・内容と子どもとの適合

Table 8 指導担当者に相談したときの対応

	よかった	どちらかと言えばよかった	とくにない
(1) 相談してどうでしたか？	39	0	0
(2) 悩み事が分かってもらえましたか？	39	0	0
(3) 具体的なアドバイスがもらえましたか？	39	0	0

Table 9 指導担当者からの説明

	よかった	どちらかと言えばよかった	とくにない
(1) 指導の目的や内容の説明を聞いて分かった	39	0	0
(2) 指導の目標や内容が、お子さんにとって合っていた	38	1	0
(3) 指導の方法ややり方の説明を聞いて分かった	37	2	0
(4) 指導の方法ややり方が、お子さんにとって合っていた	35	4	0

の程度」(38人)で、ほぼ全員が「よかった」と評価した。「指導方法の説明」(37人)、「指導方法と子どもとの適合の程度」(35人)で、9割程度が「よかった」と評価した。

## 5. 個別学習指導の成果

個別学習指導での成果の全体をFig. 1に、個々の内容をFig. 2に、子どもの参加の様子をFig. 3にまとめた。

指導成果の全体として、「よくなった」(19人、49%)、「どちらかと言えばよくなった」(20人、51%)で、全員が「よくなった」と成果を評価した(Fig. 1)。

個々の内容については、「勉強」では、「よくなった」(11人、28%)、「どちらかと言えばよくなった」(20人、51%)で、全体の8割近くが学習での変化を評価した。「意欲」では、「出てきた」(12人、31%)、「少し出てきた」(20人、51%)で、全体の8割以上が意欲での変化を評価した。「学校での様子」では、「落ち着いてきた」(8人、21%)、「少し落ち着いてきた」(19人、49%)で、全体の7割近くが学校での変化を評価した。とくに「子ども理解」では、「できるようになった」(19人、49%)、「少しできる

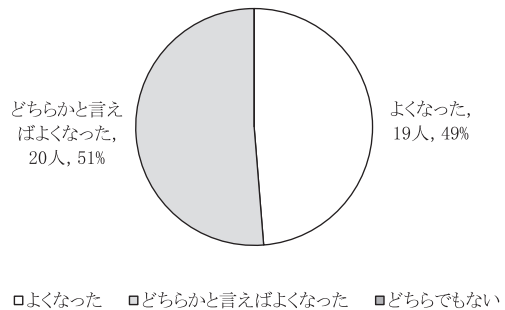


Fig. 1 特別支援教室「すばる」での個別学習指導後の子どもの様子(全体)

ようになった」(17人、44%)で、全体の9割以上が、保護者自身の子どもへの見方の変化を評価した(Fig. 2)。

その一方で、「忘れ物」「先生との関係」では、「変わらない」「回答なし」が半数を超え、「学校トラブル」「友だち関係」は、評価する回答と「変わらない」「回答なし」の回答が同程度であった。

個別学習指導への子どもの参加の様子は、「積極的」(22人、57%)が半数を超え、「まあまあ積極的」(11人、28%)を含めると、全体の8割以上が積極的に参加したと評価した(Fig. 3)。



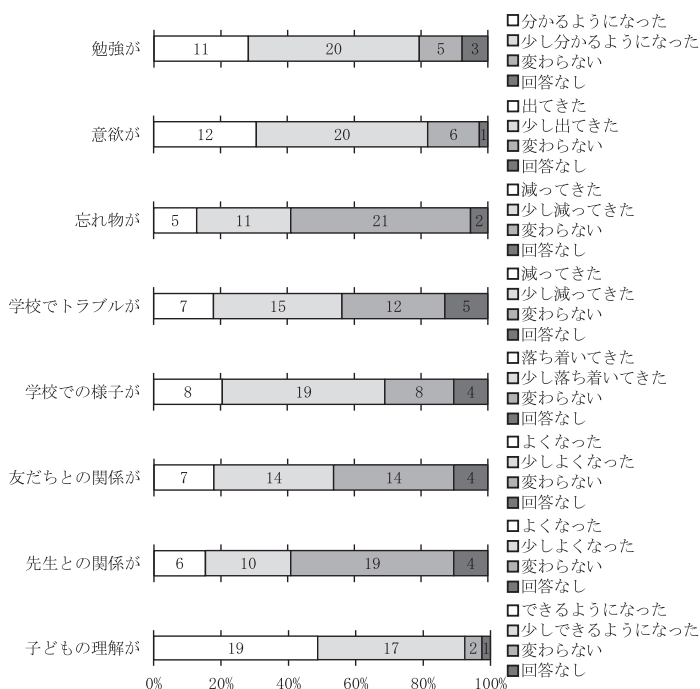


Fig. 2 特別支援教室「すばる」での個別学習指導後の子どもの様子

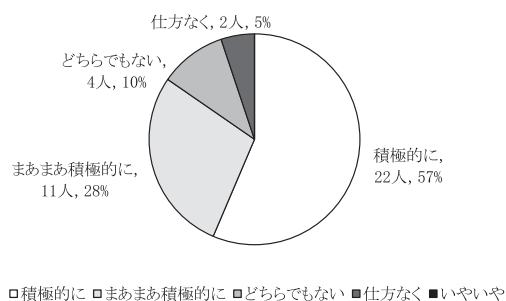


Fig. 3 特別支援教室「すばる」での個別学習指導への子どもの参加の様子

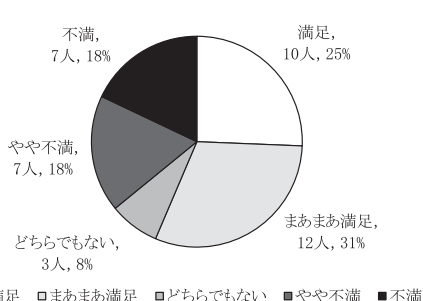


Fig. 4 特別支援教室「すばる」での個別指導の指導回数

## 6. 指導回数と連携体制

特別支援教室「すばる」での個別指導の指導回数についてFig. 4にまとめた。「満足」(10人、25%)、「まあまあ満足」(12人、31%)で、全体の半数以上が「満足」と評価した。その一方で、「やや不満」(7人、18%)、「不満」(7人、18%)で、全体の1/3以上が「不満」と評価した。「不満」の回答に、その理由と改善してほしい点を聞くと、「通年を通して指導してほしい(3人)」「月1でも通年で指導してほしい(2

人)。「次学期も続けて通えるとうい。」「週に2回くらいしてほしい。」があげられた。

特別支援教室「すばる」と担任・学校園との連絡体制についてFig. 5にまとめた。「満足」(13人、33%)、「まあまあ満足」(14人、36%)で、全体のほぼ7割が「満足」と評価した。その一方で、「やや不満」(2人、5%)、「不満」(1人、3%)で、少数ではあるが「不満」という評価があった。「不満」の回答に、その理由と改善してほしい点を聞くと、「担任の先生はすばるに

## 特別支援教室「すばる」における学習指導事業の実施状況と課題

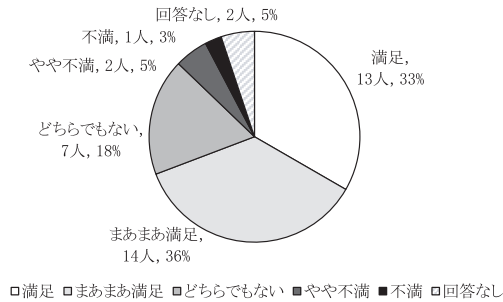


Fig. 5 特別支援教室「すばる」と担任・学校園との連絡体制

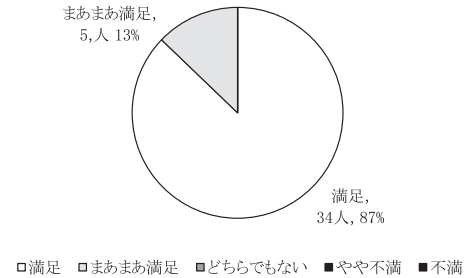


Fig. 6 特別支援教室「すばる」についての全体的な満足度

ついて分からないようで、指導も連携して行ってほしい。」という意見があげられた。

### 7. 指導に関する全体的な満足度と要望・期待

特別支援教室「すばる」についての全体的な満足度をFig. 6にまとめた。「満足」(34人、87%)、「まあまあ満足」(5人、13%)で、全員が「満足」と評価した。

特別支援教室「すばる」への要望や期待についての自由記述のうち、主なものを子どもの学年を付してTable 10にまとめた。指導担当者や個別指導への感謝、次回の指導の申込などの記述は割愛した。記述された内容として、指導内容や方法、子どもの学習の様子や意欲・精神的安定、保護者自身の子ども理解に関することが目立った。指導回数の増分や期間の延長、指導修了後のフォローアップや継続指導、学校や担任との連携に関する意見も多かった。

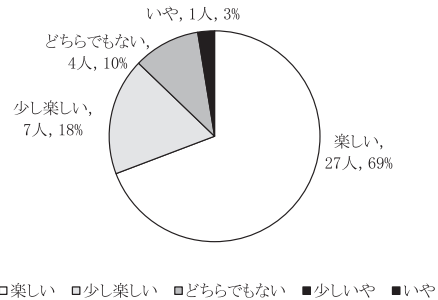


Fig. 7 「すばる教室に来ることについて聞きます」

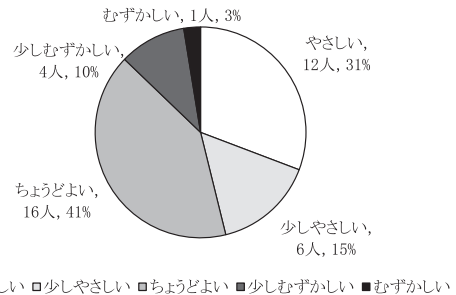


Fig. 8 「すばる教室でしていることについて聞きます」

### 8. 子ども本人による評価

個別学習指導を受けた子ども本人による評価について、すばるに来ることをFig. 7に、すばるでしていることをFig. 8に、先生の教え方をFig. 9にまとめた。

すばるに来ることは、「楽しい」(27人、69%)、「少し楽しい」(7人、18%)で、全体の9割近くが、前向きに参加したと評価した。ただし、「いや」(1人、3%)という回答が1人いた(Fig. 7)。

すばるでしていることは、「やさしい」(12人、31%)、「少しやさしい」(6人、15%)、

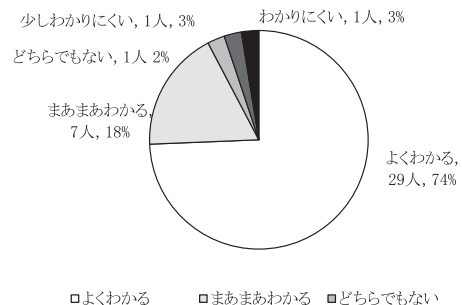


Fig. 9 「先生の教え方について聞きます」

Table 10 特別支援教室「すばる」への要望・期待

・子どもは楽しく通えた。勝ち負けのこだわりはほとんどなくなってきた。「また行きたい」と言っている。(年長)
・小学校に上がっても続けてみてほしい。10回では限られるので、もっと回数があればよい。(年長)
・励まされることが多く、来て良かった。先生の言葉で救われた。これからも支えになってほしい。(年長)
・どこを主の相談機関にすればよいかわかっていた。学校と連携してくれるのはとてもありがたい。継続的にフォローしてくれる体制があると嬉しい。(小1)
・想像以上に子どもがすばるに通うことに意欲的になった。担任との連絡はしていただいたが、学校との連携があまり取れなかったように思う。(小1)
・指導法が子どもに合っていて、継続できるともっと伸びると思う。子どもが安心して話ができ、受容してもらえ、本人の満足度は高かった。(小1)
・学校での学習を家庭でどのように教えたらよいか迷っていた。子どもも楽しみに通っていた。子どもも自分にできることが分かり、自信につながった。(小1)
・まだまだ向上できることがたくさんあるため、継続できたらと思う。(小2)
・個別指導に満足している。本人も楽しみにしていた。とても精神的にも安定して勉強していた。(小2)
・発達障害の子が生きていくうえで少しでもトラブルや苦しみを軽減させていけるようになればと思う。(小2)
・少し自信がついて、嫌なこともとりかかれるようになった。生活面はまだまだですが、なんとか頑張っている。(小2)
・1学期間だけでなく、半年～1年くらい通えるとうい。(小1)(小2)
・指導までが長い、指導期間が短い。子どもとの関係も良くなり、褒める余裕があるようになった。(小3)
・時々でも通えれば、その時の子どもの様子(学習等)のアドバイスが聞けて、不安が解消されると思う。(小3)
・子どものことが理解できた。書くことが苦手だったが、以前よりスムーズに取り組めるようになった。(小3)
・担任がすばるの話を参考に考えてくれるようになった。「専門家」の意見は説得力があって、よくわかってもらえた。(小3)
・本人は終わってしまうのは残念だった様子。(小3)
・申込み定員を増やしてほしい。困っている方が少しでも生きやすいようになると思う。学習に対する苦手意識が小さくなったと思う。(小3)
・とても落ち着き、少しずつ勉強にも取り組むようになった。すばる後、宿題をするようになり、テストも時々受けられるようになった。月1でも年間を通じて見てほしい。(小4)
・継続して訓練できればありがたい。子どもへの対応の仕方もち確に指導してもらい、私も前向きになり、子ども本人なりに落ち着く方法を学んだ。(小4)
・本人にとっては苦手なことであり、本人との関わり方も教えていただけた。本人の生きにくさが少しでも楽になるような関わりができればと思う。親としては、前向きに本人と向き合っていけそう。(小4)
・年間を通してみていただけると、学校での困りごとなどもタイムリーに解決できる。親子共に良い経験になった。(小6)
・指導後は学校での指導に変わりもなく、家庭で継続できなければ、それで終了になってしまう。通年ですばるに通うか、すばるでの指導内容を学校にフィードバックして継続的に指導を受けられる体制になってほしい。(小6)
・指導は丁寧で、子どもも分かるようになって嬉しそうでした。中学生になって月1回でも指導があればと思う。(小6)
・中学校に入って新しい悩みができたところに、もう1回通える機会があればよい。(小6)
・指導内容はとても納得できた。子どもが「変わる」までも1年ぐらいの指導があってくれたらと思う。(中1)
・もう少し回数を増やしてほしい。先生の教え方ひとつで子どもは変わる。勉強の分かる子が増える。(中1)
・子ども自身のモチベーションを高めることができた。指導期間がもう少し長ければありがたい。本人にとって、とても居心地がよかったと思う。(中2)
・3ヶ月で終わるのではなく継続してアドバイス・指導をしていただきたい。(中1)×2、(中2)
・自分にも問題が解けるという喜びを知り、問題を解いてみようという姿勢に変化してきた。すばるのような通級教室がすべての学校にあったらよい。(中3)
・小1からお世話になることができて、本当に助かった。入試、合格に向けて頑張ります。(中3)

「ちょうどよい」(16人、41%)で、全体の9割近くが、指導内容が合っていると評価した。ただし、この問いでも「むずかしい」(1人、3%)という回答が1人いた(Fig. 8)。

先生の教え方は、「よくわかる」(29人、

74%)、「まあまあわかる」(7人、18%)で、全体の9割以上が、教え方が合っていると評価した。ただし、「少しわかりにくい」(1人、3%)、「わかりにくい」(1人、3%)という回答が1人ずついた(Fig. 9)。



来ることが「いや」、していることが「むずかしい」、教え方が「わかりにくい」と回答した子は、同一の対象児で、個別の検討が必要である。

#### IV. 考察

##### 1. 指導担当者の対応と説明

保護者の多くは、指導の目的や内容、方法ややり方の説明を受けられることを、高く評価しており、それが子どもに合っていると実感していた。また、学校での様子や日常生活に、悩みを抱えており、個別学習指導後の面談で、その話を聞いてもらい、指導担当者からアドバイスが得られることを肯定的に捉えていた。

このように、個別学習指導後の面談は、指導の様子を説明するだけでなく、個別学習指導の立場から、子どもの様子を聞き、保護者にアドバイスをするという教育相談としての機能を持っていることが分かる。指導担当者が、子どもの特性を理解して指導を行っていることが、教育相談の機能を高めていると考えられる。保護者と同一の方向で支援を行い、学校や家庭での様子のフィードバックを受けることで、特別支援教室「すばる」での個別学習指導もより確かなものとなるといえる。個別学習指導と指導後の面談を有機的に組み合わせ、指導の効果を高めていく工夫をさらに検討する余地があると考えられる。

##### 2. 個別学習指導の成果

個別学習指導は、週1回1時間で、およそ3ヶ月間に10回の指導を行うものである。子どもの「勉強」「意欲」「学校の様子」、さらには保護者の「子ども理解」で変化が示された。限られた時間ではあるが、本人の特性に合わせて焦点化された指導が大きな効果をもたらしたといえる。

個別学習指導は、学習、情緒行動、対人関係から目標と内容を設定して行っているが、個々の問題が分かって解けるようになっただけでなく、子ども自身が自分でできる方法で、自ら取り組みようになったことが、変化を生じた要因

と考えられる。保護者からも、子ども理解が深まったという回答が多く得られたが、これも、子どもの学習の様子の変化から、学び方の支援として、理解を深めたことを意味しているといえる。個別学習指導がめざす目的は、子どもが自分に合った学び方を習得するように支援することにあると認識を新たにすることがある。

##### 3. 指導回数と連携体制

指導回数、指導期間については、不満の声も多かった。特別支援教室「すばる」への要望と期待での自由記述と合わせると、1期間10回の指導を越えて、半年から1年間程度継続して指導してほしいという意見と、指導期間後も定期的にフォローアップや相談にのってほしいという意見が多くあった。連携体制については、満足とする意見がある一方で、「すばるでの指導内容を学校にフィードバックして継続的に指導を受けられる体制になってほしい」のように不満の声もあった。

特別支援教室「すばる」で直接に個別指導を行うには、指導回数や指導期間ともに、現在の施設・体制では限界がある。すでに、指導期間中から学校や家庭へアドバイスしたり、協同した指導を行ったり、指導後には学校や家庭に指導結果を報告し、その後の指導の内容や方法を提案する等を行ったりしている。こうした協同した指導や指導の提案、さらには指導後のフォローアップの在り方等をさらに検討したい。

学校との連携体制については、うまくいったケースとそうではないケースがある。本アンケート調査では、その要因を十分に明らかにできていない。地域の学校における特別支援教育の捉え方は、年々変化しており、その違いも大きい。個々のケースをさらに検討して、よりよい連携の在り方を追求していきたい。

##### 4. 子ども本人による評価

子ども本人による評価の結果から、子ども自身が特別支援教室「すばる」に来ることに前向きであり、個別学習指導での指導内容や方法が理解できたと捉えていることが示された。子ど

もが、自分に合った学習機会を得ることで、学習への動機付けを高め、学習や生活に意欲的に取り組む様子が見て取れる。子どもが学習や生活について学ぶこと、指導者と学習的な関わりをすることに価値を見出すような指導支援を実現していきたい。

子どものうち1人が、放課後に特別支援教室「すばる」で指導を受けることを負担に感じていた。指導室に入って指導が始まれば、学習スケジュールに従って取り組んでいたが、車から降りることを渋ったり、指導室への入室を拒んだりすることがあった。そのため、保護者が見た子どもの様子、子ども本人の自己評価がともに低くなった。指導に従えばよいのではなく、子ども本人の気持ちや思いを含めて、子どもの学習プロセスを考えていくことが望まれる。

## 謝辞

アンケートに回答いただいた皆さんに感謝いたします。

## 付記

このアンケートは、第3期中期目標期間における重点的取組 戦略①取組3「発達障害に関する特別支援教育専門性向上事業－発達支援を基盤とした教員養成研修 プログラム、教材・支援ツールの開発－」の一環として行った。

## 参考文献

惠羅修吉・小方朋子・坂井聡・繪内利啓・馬場広充・佐藤宏一・田中栄美子・澁田泰誠 (2007) 特別支援教育に携わる教員を養成する大学院カリキュラムに関する研究：現行大学院ならびに現在計画中の一年制修士課程特別支援教育コーディネーター専修におけるカリキュラム編成にむけて、香川大学教育実践総合研究, 15, 49-58.

惠羅修吉・田中栄美子・武藏博文・馬場広充・秋山嘉光 (2013) 特別支援教室「すばる」における現職教員内地留学生のための長期研修プログラムの開発－通級指導モデル教室における現職研修の充実に向けて－, 香川大学教育実践総合研究, 26, 155-161.

平子雅張・菊池紀彦 (2012) 発達障害児に対する通級指導教室の役割とその重要性についての検討, 三重大学教育学部研究紀要, 第63巻, 教育科学, 203-214.

石塚誠之 (2016) 学校教育において特別な配慮を要する児童に対する支援の実態と課題：保護者のニーズに関する調査研究から, 北翔大学教育文化学部研究紀要, 1, 1-14.

香川大学教育学部 (2011) 平成18～22年度文部科学省特別教育研究経費「特別支援教育推進事業」成果報告書.

香川大学教育学部 (2017) 平成26・27年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業 (発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) 及び平成28年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 (教職員育成プログラム開発事業) 成果報告書.

小越咲子・廣澤愛子・武澤友広・松井富美恵・近藤信一郎・三橋美典 (2012) 発達障害児の保護者の学びについて－療育教室に通うことで母親が何を学んだか－, 福井大学教育実践研究, 第37号, 85-88.

武藏博文・山本木ノ実・中島栄美子・徳永千恵子・富永大悟 (2017) 特別支援教室「すばる」における現職教員のための研修プログラムの充実－個別学習指導の事前研修プログラムの検討と試行－, 香川大学教育実践総合研究, 34, 55-67.

仲森みどり・大谷正人 (2016) 発達障害幼児の保護者への理解と支援－A市療育施設の保護者を対象としたアンケート調査より－, 三重大学教育学部研究紀要, 第67巻, 人文科学, 87-98.

大里朝彦 (2017) 特別支援教育における望ましい教育相談のあり方を探る－発達障害児の母親のアンケートを通して－, 子ども教育学会紀要 (9), 25-33.